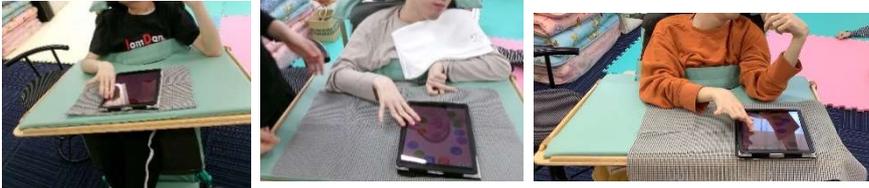


実践タイトル	「右上肢を意図的に動かそう」
学部・学年 対象生徒	高等部・3年
実践場面 「単元・題材名」	自立活動 「右上肢を意図的に動かそう」
対象生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・視力は明暗が分かる程度。 ・耳は聞こえている様子である。突然聞こえる大きな音が苦手である。 ・探索をするときは右手を使うことが多い。 ・音の聞き分けができていて、オノマトペを好む。 ・明るい曲調で身体を楽しそうに動かす。 ・右上肢は、普段は肘を曲げて手を拳上させて過ごしていることが多い。脱力しているときは、肘は机についているが、力が入ったり、楽しい気持ちになったりすると、肘を浮かせて腕を動かす様子も見られる。
使用アプリ、使用機器	あそべビー iPad
ICT 活用の意図 <input checked="" type="checkbox"/> 思考の補助 <input type="checkbox"/> 共有 <input type="checkbox"/> 共同編集 <input type="checkbox"/> 保存提出 <input type="checkbox"/> 検索収集 <input type="checkbox"/> 撮影録音 再生 <input type="checkbox"/> 提示・配布 <input type="checkbox"/> 一覧表示	<ul style="list-style-type: none"> ・右手で探索した先に音が鳴るアプリが開かれていることで、探索した先に楽しいことがあることを印象付ける。 ・iPad を置く位置を、身体の正中線よりも左側に置いたり、身体の近くに置いたりすることで、右上肢を意図的に動かす範囲を広げることができるようにする。
実践の様子・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは滑り止めシートを iPad の大きさに合わせて折りたたんだ状態で使用していたが、活動範囲が狭まってしまうと考え、大きく広げた状態で活動を行うようにしたところ、右手を動かす範囲が広がった。 ・初めは iPad を身体の正中線くらいに置いたところからスタートし、本人の様子を見ながら iPad の位置を徐々に正中線よりも左側になるようにしていった。初めは右手を左ではなく右に動かしてしまうことが多かったが、右手を左に動かした先に iPad が置いてあり、アプリが開かれた状態で置いてあることで、本人が画面に触ったときにアプリが作動し、iPad に触ると音が出ることを印象付け、担任と一緒に左に動かすことを確認しながら学習を積み重ねていくうちに、右手の探索範囲が徐々に左側にも広がっていった。また、感触学習の時にも左側まで右手を伸ばして活動する様子が見られるようになってきた。 
活用のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad で本人の好きな音源を探して用意することができる。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が iPad の画面に触っているうちに勝手に画面が変わってしまうことがあったので、本人の動きに合わせてアクセシビリティなどで細かい設定をしてから活動を行うと良いと感じた。 ・左右の探索活動は積み重ねることができたが、前後に探索範囲を広げる学習が積み重ねられなかったため、今後学習を積み重ね、さらに右手を意図的に動かせる範囲を広げていきたい。